

農業委員会だより 第62号

発行 印西市農業委員会 編集 農業委員会だより編集委員会
〒270-1396 千葉県印西市大森2364-2 電話 0476-33-4707

過去に紹介した新規就農者「その後」のご紹介



新規就農者としてご紹介し6年が経過した、齊藤はるかさん。サラリーマン家庭で育った彼女が、故郷を離れ単身で印西市に就農した「農業への思い」を聞いてみました。



就農後について

茨城の農業法人を退職後、2013年に新規就農しました。まずハウスを立て、中古農機をそろえ、井戸を引く等々、ベースづくりを相当な期間がかりました。それと同時に生産や売り先探しと、3年目までは本当にあつという間でした。やっと生活ができるようになったところ、地元の方の紹介で印西市師戸に中古の小さい家を買いました。静かで、季節のある村の暮らしは、日々小さな喜びや発見にあふれていてとても気に入っています。



齊藤はるかさん

理をし てまた ゆっく り前に 漕いで いたと思 います。

農業経営について

就農当初から近隣の若手農業者の定期勉強会に参加させてもらい、成田や船橋など他の地域の農業を知る機会に恵まれました。先進的な取り組みをしている農家さんは、大規模化やブランド化などに熱心に取り組んでいました。

私はというとうと都内卸や個別宅配で野菜を売る小規模多品目栽培、生産物で生活できるレベル、資金不足、力不足には事欠かない状況。あると言えはこの地域や暮らしへの愛着が大きいです。

そのうちに同じ土俵に上がって戦うより、周りにあるものを活かす、つまり、「ない」を楽しむ方が私にはちょうどよいと開き直るようになり、地域や私自身の特色を活かした身の丈の生業として農業経営を捉えなおそうと思うようになりました。人手は街の人からボランティアを募集したり、加工施設がないので梅干しや味噌づくりは体験を売りにしたり、実際は思考錯誤の連続でしたが少しずつ形になってきています。冬場に木こりや猟師を手伝ううちに森づくりや解体体験といったイベントコンテンツも増えてきました。野菜の生産は秋、冬に集中させ、不安定な春・夏は省力化してバランスをとりました。

私の百姓化とともに徐々に経営が安定し

てきました。それ以上にヒトとのつながりや可能性に出会える今のやり方に面白みを感じています。

昨年は佐倉のボーイスカウトさんや、ちきゅうの学校という団体との取り組みもあり、年間250名ほどの来園がありました。



ボーイスカウトさん達とのイベント



竹を切るノラ作業体験

これからの取り組み

農業は人手不足、自然災害の頻発化、高齢化といろいろな問題を抱えていると言われますが、もともと人手が必要で、自然に振り回される、そういう不効率さに農の魅力があるようにも思います。農作業でボランティアさんと一緒に汗をかき、手間はかかってても季節の野菜や漬物で食事が豊かに深まっていくこと。サラリーマン家庭で育った私が農業法人や今の百姓のようなやり方で働く中で一貫して感じていたことでした。もちろん都会の人が思うほど農業は楽ではないのですが、土に触れたことのない都会の大人や子供たちと出会うと私たち農家が思うより農業は楽しくて新しいと教えられます。季節のものを育て、暮らしつつ、都市と田舎の間にあるこの印西市で農業や暮らしの面白さを発信していきたいと思えます。

新年のご挨拶



印西市農業委員会
会長 篠田 道雄

新年あけましておめでとうございませう。日頃より、当委員会活動に対し、ご理解ご協力を賜わり厚く御礼を申し上げます。さて、昨年は台風や大雨などにより、当市もこれまで以上に経験のない大きな被害を受けました。被災された方々には、一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。農業委員会は、本年も農地の適正な利活用を図るべく、健全な農業の発展に寄与して参りますので、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。皆様方の益々のご多幸とご健勝を祈念して、新年のご挨拶と致します。



有害鳥獣駆除情報



		H26	H27	H28	H29	H30
鳥	類	128	102	127	119	89
小動物	ハクビシン	151	114	111	182	151
	タヌキ	190	178	225	241	264
	アライグマ	3	20	12	16	19
イノシシ		195	364	587	612	958

市内で農作物に被害及ぼす有害鳥獣の過去5年間の捕獲数の推移は上記のとおりとなっています。

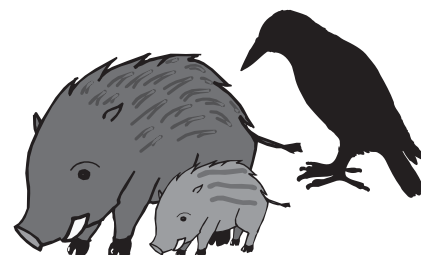
なかでもイノシシについては、旧印旛村で平成19年度に初めて捕獲されてから、現在では、市北西部の一部とニュータウン区域を除く市内ほとんどの地域で捕獲、または生息が確認されており、平成30年度には958頭の捕獲に至っています。

イノシシの生息数の推計方法は未だ確立されていないため、市域全体の生息数を把握することは困難ですが、捕獲数が増えているということは、同時に生息している個体数も増加しているであろうことが推察されます。

また、平成30年度のイノシシによる、印西市の農作物被害額は推計で約1,330万円に上っており、生息域の拡大に伴い被害額も年々増加してきております。今後は生息数及び生息域拡大の抑制のため、捕獲圧の強化に加え、効果的な防除方法の研究等に努めていきたいと考えています。

イノシシに関わらず、鳥獣から農作物を守るために、「耕作地に有害鳥獣が入ってこないようにする」「有害鳥獣を捕獲する」「耕作地の周囲に鳥獣が生息しやすい荒廃地等を作らない」などの方策をバランスよく実施していくことが大切です。

また、二番穂や収穫残渣、放置果樹なども、鳥獣にエサを与えているのと同じ状況であると言えますので、これらの管理にも注意を払っていくなど、自身の手で農作物を守る努力が必要です。

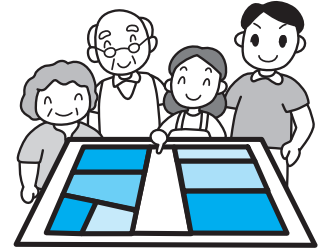


【お問い合わせ】

印西市役所 環境保全課 鳥獣被害対策係
(33 - 4439)

地域の農業を守り、持続していくために ～集落で話し合っ人・農地プランを作成しましょう～

「人・農地プラン」とは、集落の皆さんが主役となって、地元の農業のこれからについて話し合いを行い、後継者のない農地をどうするか、誰にどのように農地を集めるかなど、集落毎の将来方針をまとめていくものです。市では、アンケートや聞き取り活動の実施、地図の色ぬりなどを通じて、話し合いのサポートをさせていただきます。集落で話し合いや制度の説明会を行いたいというご要望がありましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。



【お問い合わせ】 印西市役所 農政課 振興係 (33-4488)



販売風景



委員手作りの焼き台



仕込み作業風景

令和元年11月2日(土) 印西市農政課主催のいんざい産業まつりに参加しました。会場はBIGHOPガーデンモール印西の駐車場を貸し切り開催され、当日は天候にも恵まれ、会場内は大盛況でした。農業委員会でサツマイモを手作りの焼き台で石焼きいもとして販売したところ、おかげさまでまつり終了前には完売することができました。

令和元年度 いんざい産業まつりに参加しました

令和元年9月26日(木)に銚子市農業委員会にて視察研修を行いました。主に委員活動の現状や課題を印西市と比較した形式で研修を行い、参考となる点や共通の問題となる点などを話し合い、今後の委員活動へ活かす大変有意義な研修となりました。



視察研修 (銚子市)

令和元年度 印西市農業委員会視察研修

農業就業人口の約半数は女性農業者が活躍しています。女性ならではの視点やアイデアで農業の魅力を引き出し、地域農業の活性化に貢献してみませんか？農業を盛り上げたいと考えている女性農業者の方、農業委員へのご応募をお待ちしております！

**女性農業者の皆さん！
農業委員になりませんか？**



遊休農地を無くしましょう!

◆遊休農地とは

耕作の目的に供されておらず、今後も引き続き耕作の目的に使われる見込みのない農地及びその利用の程度が周辺地域の農地に比べ、著しく劣っていると認められる農地

◆なぜ問題?

不法投棄の増加や火災、病害虫の発生等により、近隣農産物への被害や住民への悪影響が考えられます。また、大切な資源である農地が減少してしまうことから、減少を食い止め確保していかねばなりません。

農地に係る許可申請はお早めに…

農地を耕作目的で、売買や貸し借りをを行う場合は、農業委員会の許可が必要となります。

また、農地を農地以外に用途を変更する場合（農地転用）は、千葉県知事の許可が必要となります。

許可を受けずに農地転用をした場合は、違反転用となります。

なお、農地を山土砂等で埋め立てを行う場合には、農業委員会への届出又は一時転用の許可が必要となります。申請の際は、必ず事前に農業委員会事務局へご相談ください。

農業委員会への申請締切り

- ▼ 毎月25日（閉庁日の場合は、前日の閉庁日）
- ▼ 事前審査会 …… 申請翌月の中旬
- ▼ 総会 …… 申請翌月の中旬

農業者年金に加入しませんか

農業者年金に加入して安心で豊かな老後を

【農業者年金の主な特徴】

- 農業に従事されている方は誰でも加入できます。
60歳未満の国民年金第1号被保険者で、年間60日以上農業に従事していること。
- 保険料は自分で選べ、いつでも見直せます。
月額2万円から6万7千円の間で千円単位で設定できます。
- 税制面で大きな優遇措置があります。
支払った保険料は、全額が社会保険料控除の対象となります。
- 積立方式（確定拠出型）の年金です。
- 終身年金で、死亡一時金があります。



農業者年金の内容やご相談については、

農業委員会事務局（電話33-4707）、JA西印旛（電話48-2210）
または農業者年金基金（電話03-3502-3199）にお問い合わせください。

全国農業新聞を購読しましょう!

- 農家のための情報誌です。
- 毎週金曜日に発行（週刊）
- 購読料 月額700円
（送料・税込）
- お申し込みは、
農業委員会事務局へ
（電話 33-4707）

編集後記

昨年は、今までにない程の天候の激しさで、自然相手の農業が思い通りにならないことを改めて痛感した一年でした。先祖代々から受け継がれた農地を焦らず、腐らず、また前を向いて守っていこうと思います。

農業委員会だよりに、ご意見、ご要望、明るい話題がありましたら、農業委員又は農業委員会事務局までお寄せください。
〈篠塚委員〉

- 編集委員長 米井 絹恵
- 編集委員 荒井 一和喜
- 編集委員 岩井 誠
- 編集委員 鈴木 清美
- 編集委員 五十嵐 義弘
- 編集委員 篠塚 隆章